

「お盆の棚経たなぎょうについて」

今年の盆棚経は原則8月10日

(土) から15日(木)の6日間で訪

問します。7月中頃には葉書で来
訪日時をお知らせします。

新盆のお宅には優先して13〜15

日のお盆期間中にお伺いするよう

日程を組みますが、今年は火・水・

木ですので土日・祝日が良いとい

う場合は、今すぐお知らせ下さい。

また例年、お盆よりも休日を持

望される方がいらっしやいます。

その方々には、3日(土) 4日(日)

も含めてのご案内となります。

またコロナ以後、ご自宅への訪

問よりもお寺での合同法要への参

加を希望される方も増えました。

その方々には基本15日午前9時よ

りのお寺での合同法要のご案内を

差し上げますが、やはり今年の家

に来て欲しいという方がいらっし

やいましたら、こちらも今すぐお

知らせ下さい。

なお6月30日現在、13軒の会員

様が令和6年度の会費未納です。

お早めにお振り込み頂きますよう、

宜しくお願い致します。

實相寺 花園會報

令和六年
七月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第183号

お寺の掲示板

『スツターパータ』は南方仏教に伝わる

パーリー語経典※の一つで、現在の研究では

数多ある仏教経典の中で、最も古いもので

あり、実在したお釈迦様の言葉に最も近い

詩句を集めた経典です。

ここでいうバラモンとは、当時はバラモン

教社会でしたから、バラモン教の司祭という

よりも、聖人とか立派な人を意味します。

※大乘仏教は主にサンスクリット語経典

生まれによって
賤しい人と
なるのではない
生まれによって
バラモンと
なるのではない
行為によって
賤しい人ともなり
行為によって
バラモンともなる
スツターパーター三六

「業と空」1

平成30年より道元禪師の『正法眼蔵』を毎月輪読しています。先日読んだ「三時業」が興味深かったので要約して紹介します。

話はお釈迦様から第十九代目にあたる鳩摩羅多尊者に、後にその法を嗣ぐ闍夜多尊者が質問したところからはじまります。

「私の両親は以前から仏教を信じていますが病気がちで、やることなすこと思うようになりません。ところが隣家は賤しい行いをしていて健康で、何事もうまくいっています。どうして彼等は幸福で、私達は不幸なのでしょう？」

この問いは、人間の悩みが普遍

的でいつの世も変わらないことを教えてくれます。「なぜこの世は不公平なのか？」と。

すると鳩摩羅多尊者は答えます。「何を疑うことがある。善悪の報いには三つの時がある。大体人は善人が早死にしたり不運にみまわれ、悪人が長生きしたり幸運に恵まれると、すぐに因果応報などは無いというが、彼等はその（行為の）影響が少しも違わずつき従っていることを知らない。それは百千万劫経とうと、けして磨滅しない」。それを聞いた闍夜多尊者の疑いは直ちに晴れた、と『景德伝燈録』は伝えます。

この逸話を紹介した上で、道元

禪師は『大毘婆沙論』に説かれる三時業について説明します。それは、順現法受業（現生に於いて善悪の報いを受ける業）、順次生受業（次生に於いて善悪の報いを受ける業）、順後次受業（後の次生に於いて善悪の報いを受ける業）の三つです。

ところで現代の日本仏教では、この「業」という考え方は様々な差別を助長してきたという反省から殆ど語られませんが、例えばハンセン病はかつて業病とも呼ばれました。病気の原因が判らなかつた時代、それは前世の報いだと考えられたからです。またそもそも業という観念は仏教以前からインド

に存在するもので、カースト制度を補完する「輪廻転生」の根拠でもあります。「あなたが低い身分に生まれたのは前世の行いの報いであり、今生で善根を積み来世はきつと高い身分に生まれ変わるこゝが出来ると」という考え方です。

このように業は時として社会的差別の仕組みを肯定し、被差別者に対して「あきらめ」を強いたり、権力者に従わないと報いを受けるという「恫喝」に荷担してきた歴史があります。そのため現在では忌避されているのですが、私にとってこの巻は新鮮でしたし、「これ（業）も一つの救いだな」というのが率直な感想でした。（続く）